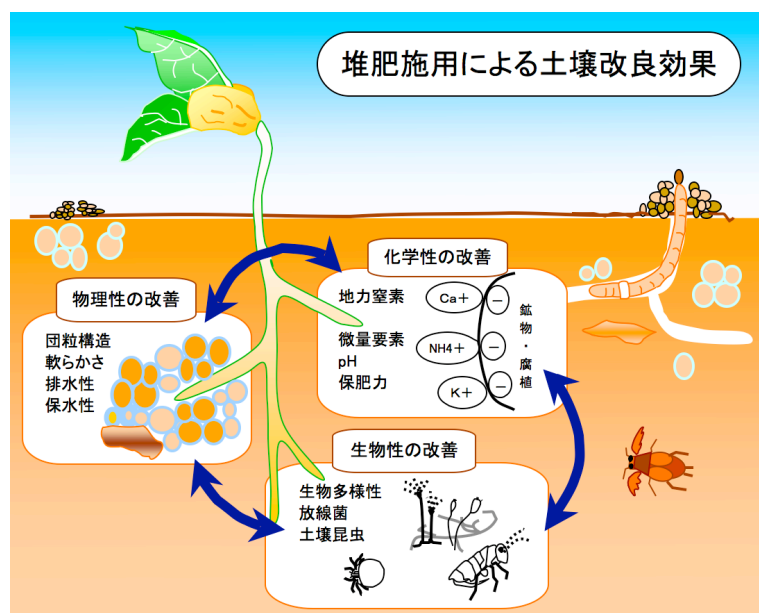
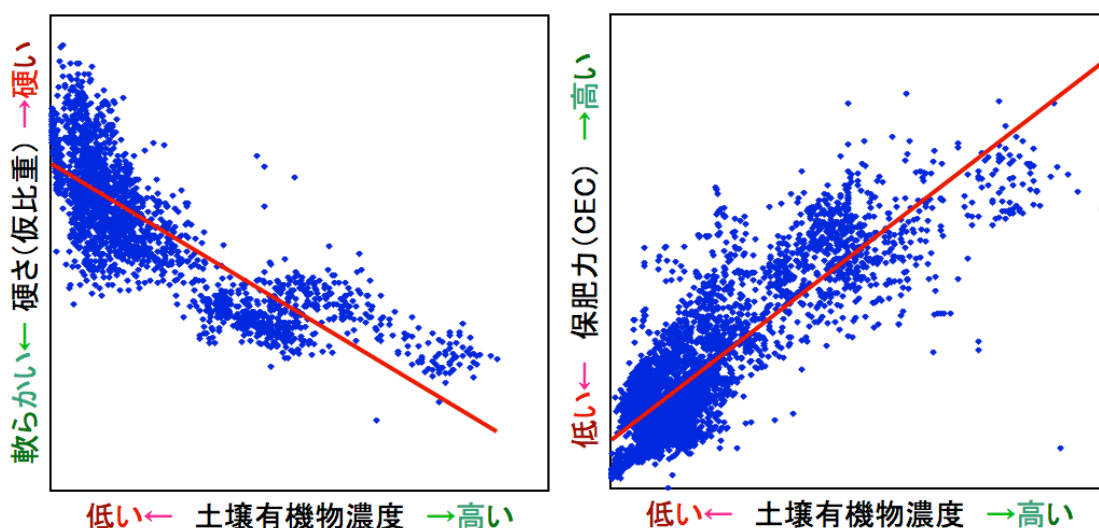


## 第2章 土壤改良とは

土壤改良は、収穫量の向上、収穫物の高品質化、収量や品質の安定性向上などを目標として行います。土壤は、右の図のように物理性、化学性、生物性といった側面が密接に関係しあいながら作物の生産を支えています。この複雑な土壤のどこを見れば、土壤改良が進んだと言えるのでしょうか。



下の図は、土壤に含まれる有機物の量が多ければ、土壤が軟らかく、保肥力が高いことを示しています。軟らかさや保肥力は、土壤機能の一部でしかありませんが、土壤の有機物濃度が土壤改良効果の1つの指標になると考えられます。もちろん、痩せた土壤が適する作物もありますし、過剰な有機物の投入が悪影響を作物に与えることもあります。**土壤の有機物濃度をどうしたいのかを、きちんと判断することが、土壤改良において重要なポイントとなります。**



土壤有機物濃度は土壤の硬さや保肥力と密接な関係がある  
中央農業総合センターがまとめた堆肥連用試験データベース（中央農研  
研究資料8）から抽出した4606件の堆肥連用畑地のデータを解析した結果